

# 平成 30 年度 学校法人創志学園 事業計画書

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

## 【高等教育部門】

### 1. 環太平洋大学

#### <事業計画概要>

建学の精神に基づく教育目的の達成、研究拠点として学術における対外的発信、地域に根差した活動による地域貢献の役割の達成、産学連携を推進した実学教育と社会貢献に努める。

また、各学部・学科、研究所の役割と業務を再点検し、各部署の目標設定等を明確にして、部署と構成員の評価が可能な組織体とするとともに、校舎・施設の新たな整備を進め、教育活動への利用の他、広報活動に最大限活用する。

加えて、新たに「保健医療学部理学療法学科」を平成 31 年 4 月に開設するための手続きを進める。

#### <主な事業計画>

##### 1. 学部・学科の主な取り組み

###### (1) 次世代教育学部 こども発達学科

優秀な学生を確保するため、保育技術検定奨学金を準備し、新たなコース設定(「幼児体育コース」「幼児英語コース」)を行うとともに、「幼児体育指導力」、「幼児英語指導力」、「こども学」修得に向けたカリキュラムの教育効果を分析し、指導体制を確立する。また、表現教育、ICT、人工知能、ロボットを活用した授業により、保育者としての資質と能力の向上を図り、公立幼稚園・保育園合格(目標 12 名)、私立園就職率 100%を目指す。

###### (2) 次世代教育学部 教育経営学科

グローバル化に対応する教員を養成するため、国際教育コースの充実化、留学の推奨、英検等の受検推奨によって英語力の向上を推進する。また、新たに「教育心理コース」を設置し、子どもの心理的ケアの専門的知識・技能や、「学習心理カウンセラー」等の資格取得に向けたカリキュラムを整備する。加えて、徹底した実学教育科目「青年教師塾(教育実践学)」の充実、公立学校・教育施設と連携したプログラム、学生の自主的・自発的な取組、及び進路別ゼミにおける徹底した学習・就職指導を強化により、教員採用合格者 81 人達成を目指す。

###### (3) 次世代教育学部 国際教育学科

グローバル人材の養成に向けた TOEIC の対策、留学生の日本語学習支援とキャリア支援、学科としての発展的改組に伴うカリキュラム見直しと、教員の授業力向上を図るためのアクティブラーニングや ICT を活用した授業展開、外国人教員の学生指導力の向上、研究力向上のための学内研究発表会を開催する。また、地域貢献として、留学生による学校支援ボランティアや地元の小中学校との交流、岡山県・赤磐市の外国人観光客誘致事業や地域特産品の輸出・観光地紹介事業への参加等を進める。

###### (4) 次世代教育学部 教育経営学科 [通信教育課程]

新たな取組みとして、中高保健体育免許や保育士資格を取得できる専攻の設置を進めるとともに、編入を含めて 350 名の学生募集の目標達成のため、WEB 広報の充実を図るとともに、説明会を年間 20 回、個別相談会を年間 20 回開催する。また、学生サービスの充実化を図る目的から、全国各地での履修・学修相談会の実施によって学習意欲の向上化や退学防止につなげ、アンケートによる意見収集を行い授業と事務の改善に努める。加えて、システムの WEB 化を推進することで、

受講料や証明書発行の外部決済システムの導入、レポート提出等の各種手続の WEB システム化を図る。

(5) 体育学部 体育学科

5つのコース（教員養成コース、公務員コース、スポーツビジネスコース、スポーツ科学コース、スポーツトレーナーコース）のさらなる充実を図るとともに、スポーツ医科学センターを拠点としたスポーツ科学分野の強化を図り、競技力向上のための各種分析サポート（心・技・体）、及び選手のパフォーマンス向上（怪我をしない体作り）を目指す。また、学生募集においては、一般入試での出願数を増やすことを目標として、監督枠の見直しを行い、戦略的なオープンキャンパスの実施と高校訪問を実施し、キャリア教育における大志会、立志会、翔志会との連携を強化し、学科教育とキャリア教育の融合を強固にするとともに、中高保健体育の教員合格数を増やすために保体大志会を設ける。

(6) 体育学部 健康科学科

各学年別の国家試験対策として1年生の環トレ柔整（筋骨格系）、2年生の環トレ（柔道整復理論）、3年生の補講（解剖学・生理学・一般臨床医学）、4年生の夜間特別補講を通年実施し、月1回の実力テストによる個人学力の把握により、国家試験合格に向けた効果的な指導を行う。また、健志会の活動として、学科特別就職セミナー及び企業訪問の実施、宿泊勉強会や外部講師による講演会の開催、入学前サポートの実施や個別保護者会を開催する。

(7) 経営学部 現代経営学科

ビジネスプランコンテスト・課題体験プロジェクトの推進によって起業化に向けたサポートを行うとともに、学外との連携推進、アントレプレナーシップ人材認定制度（経営学部独自の認証制度）の導入を行い、起業家の人材育成を充実させる。また、学科の「実践的・リアル」という特色を出すための授業展開に取り組むため、経済界の第一線で活躍している客員教授の招聘や該当科目履修の活性化、インターンシップ先の開拓、ゼミ活動の活性化等を図る。

## 2. 就職率向上への取り組み

- (1) 「4年後に責任を持つ」を旗頭に、合格・内定数の具体的な数値目標を立て、「目標の見える化」「目標達成のための環境づくり」「三志会（大志会、立志会、翔志会）の学生の主体的運営に向けた仕組みづくり」を推進する。
- (2) 採用試験合格状況、企業就職内定状況の正確な把握と学内への広報を図り、入口であるアドミッションセンターとの連携を強化する。
- (3) キャリアセンターと各学部・学科の連携強化と情報共有のため、各支援室と学科間の会議の新設や個別に密接な連携を図る。
- (4) IPUNZ との連携を強化し、TV会議での就活セミナーの開催等によりキャリアセンターで支援する。

## 3. 学生支援に関する取組み

- (1) 学習状況、部活動、就職活動等に関する情報を一元的に管理する個人カルテシステムを活用し、指導担当者間で情報共有による、きめ細かな学習指導と生活指導等を行う。併せて、全国の主要都市にて保護者会を開催し、メンター及びゼミ担当教員等から保護者へこれらの情報を提供する。
- (2) 体育会

科学的、心理学的サポート及び栄養サポート等を含めた「チームIPUサポートシステム」を導入することにより、更なる競技力向上のための環境整備を図る。また、男子バスケットボールの創設による学生獲得の増加を図る。さらに、指導者に対する部員数の適正化と面談時間及び情報入時

間の確保等学生指導の充実を図る。

### (3) 学友会

学友会の年間行事を見直し、より多くの学生が参加できるインカレ等の体育会主要大会への応援ツアーの増加、体育会以外の各サークル活動への助成の充実等を図る。また、学生により直接的に効果が及ぶ新たな事業展開も含めた、効率的、効果的な予算執行計画を作成する。

## 4. 募集戦略

- (1) アドミッションセンターの組織運営の再構築と学内関連部署との連携を図り、チームでの取組みの進捗（数値）及び効果的な手法を共有し、モデル化する。
- (2) 効果的な広報手法（デジタルメディア活用）を確立させ、入試広報における広報戦略及び中長期的視野で大学広報としてのブランディング戦略を行うとともに、定量・定性分析による精度の高い効果測定を実施する。
- (3) 募集広報の組織力向上のため、月次会議によるセンターでの情報共有、学内関係部署との接点強化やチームとしての協働の風土を醸成する。
- (4) 広報手法におけるデジタル導入と効果測定を行う目的から、TVCM とネット広告の連動による効果の可視化、タイムリーな発信の実現、全学生アンケートの実施による実態把握と改善を図る。
- (5) 留学生募集を体系化し、責任者を明確化していくとともに、別科、1年次入学、3年次編入の対応と国別戦略を企画していく。

## 5. 施設設備等の整備計画

- (1) 実習棟ディスカバリーの新築に伴い、機器・備品の整備、施設の利用や移転計画を進める。
- (2) スポーツ医科学センターの建築と機器類の整備、稼働に向けた管理体制と活用内容を検討する。
- (3) 和気町の小学校跡地活用によるベースボールパーク、野球部寮、給食センター（仮称）の稼働開始と運営体制を充実させる。
- (4) 新学生寮「ユニヴィレッジ（仮称）」の新築と入居開始に伴い、管理運営体制の構築と既存寮（体育会各部管理）の見直しを図る。
- (5) 陸上競技場にクラブハウスを新築し、陸上部やサッカー部、ラグビー部等で利用する。
- (6) 新学部設置計画（保健医療学部）に伴い、駅前グローバルキャンパスの施設整備を行う。

## 6. 研究に関する取組み

- (1) 学術研究推進委員会を中心にサポート体制を一層充実させ、科研に関する説明会を2回、勉強会（科研塾）を3回開催する。
- (2) 紀要の年2回の発行と、研究発表会の実施や投稿前論文の読み合わせ会を実施する。

## 7. 評価及び業務の合理化等に関する取組み

- (1) 大学予算の効率的運営と業務の合理化から、管理経費の見直しや省エネルギーの徹底、IT化の推進を実施する。
- (2) コンプライアンス（法令遵守）の徹底を図るため、公的研究資金の不正使用防止、個人情報の保護及びハラスメント防止対策等に関するFD・SD研修や啓発活動の充実を図る。

## 2. 東京経営短期大学

## ＜事業計画概要＞

入学時からホスピタリティ精神及び協調性の育成を目標としてのカリキュラム、各種行事、学生指導を行い、学生・教職員間の距離感を縮め「チーム Keitan」として資格取得、進路確定を目指すとともに、グローバル社会において必要とされる異文化理解を深めるために、短期留学プログラムや海外大学3年次編入学を可能とする英語教育、国際教育を展開する。また、「村田塾」、「公務員対策ゼミ」、「TOEIC 対策ゼミ」をはじめとして、就職や大学3年次編入に強い資格取得指導を更に改善し、合格率及び進路内定率の向上を目指すとともに、国際色を打ち出すため、欧米大学と教育提携を更に締結し、正規留学生及び交換留学生を受け入れる。

## ＜主な事業計画＞

### 1. 経営総合学科

総合ビジネスコースにおいては、国際コミュニケーションをはじめとする全6ユニットの内容を充実させ、学生自らが卒業後キャリアを発見できるようにするとともに、専門ゼミナールにより、現代ビジネスに沿った実体験型、専門性と即戦力を高める。

また、会計税務コース・医療事務コースにおいては、就職先の開拓及びビジネス特別講義の開講とともに、金融系、医療系への就職を可能とするカリキュラム内容、資格取得を徹底して行う。

### 2. こども教育学科

「保育実習」「教育実習」のサポートを徹底し、「実習に強い」短大という差別化の構築保育実習(保育所／福祉施設)「教育実習(幼稚園)」を成功させるための支援体制の強化及び学生指導システムの構築を行う。また、入学前からの One to One 指導を基本としたきめ細やかな指導とサポートをするため、学科を越えた全学的な教職員支援体制を構築する。加えて、学生全員が幼稚園教諭・保育士「ダブル資格取得」、及び就職率100%を目指したカリキュラム体制、学生指導及び授業時間以外の公務員対策塾(志高会)を新たに設置し、学生指導にあたる。

### 3. 学生募集

こども教育学科においては、早期のアプローチが重要であることから、主に4月から7月までの学内行事、教育実習成果、各種資格取得状況等を高校へ発信し、早期にA0入試、指定校入試で入学定員確保を目指す。

また、経営総合学科においては、高校、日本語学校への在学生報告を定期的(年4回ニュースレター発行)に実施し、短大の取組みや学生の活動報告を発信する。

その他、入試形式の更なる見直し、オープンキャンパス内容の再検討、ホームページを含むWeb媒体の活用方法について検討し、地元での認知度向上及び社会人募集に関する取組みとして公開講座を企画・開講する。

### 4. 進路支援の強化

- (1)①「キャリア塾」、「キャリアセンター」、「資格ゼミ」の他、各専門ゼミナールからの企業アプローチを行う。②幼稚園・保育園での教育実習のレベル向上を目指した学生指導を行う。
- (2)国公立大学や海外大学の3年次編入学を可能とするため既存の「四年制大学編入ゼミ」の見直しに加えて、「TOEFL 対策ゼミ」を新たに設置する。

### 3. 環太平洋大学短期大学部

#### <事業計画概要>

専門性の向上のため、ヨコミネ式教育法導入園である附属幼稚園・元気の泉保育園とより一層の連携を深め、学生の実践的保育力を高めるとともに、福祉分野で活躍できるベネッセスタイルケア社との連携を深め、在学中に学んだ資格・技術を社会で生かせるようにする。

また、学生満足度の向上のため、学生主体で達成感のある活動になるよう、これまでの活動行事（真珠の核入れ・玉出し、ガイヤカーニバル、マリン・スキー実習、学園祭）に加え、IPU との交流（学友会、保育実習、表現教育、体育会交流等）を深める。

さらに、学生サポート体制の向上のため、精神的に弱い学生や目的意欲を喪失する学生の支援のために、自己表現力やコミュニケーション力を重点的に育成するとともに、教職員研修を通じて学生の情報を学科全体で共有し、さらなる効果的な学生サポート体制を検討する。

#### <主な事業計画>

##### 1. 初年次教育の再構築と学習フォロー体制の確立

「総合演習」の時間を初年次教育に充て、社会人としての礼儀や、基礎学力指導を徹底する。また、各メンター教員が授業の出席状況や学習面での躓きをこまめに把握し学習フォロー体制を確立する。

##### 2. 体育会強化指定4クラブのさらなる競技力向上

『スポーツのアイタン』を全国に再アピールすべく、体育会強化クラブ（ソフトボール・ハンドボール・剣道・バレーボール）において、最低限全日本インカレ出場、及び1・2回戦突破を目標とする。

##### 3. 幼保短連携の推進

鹿児島県志布志市のヨコミネ園での保育実習に附属幼稚園・元気の泉保育園の保育者を帯同させ、現地研修を実施、その成果を現場に還元することによりヨコミネ教育法実践強化を図る。加えて、市内においてヨコミネ式教育法に特化した保育法の差別化を図り、より一層の園児の獲得に繋げる。

##### 4. IPU のこども発達学科との連携強化

こども学会や中四国研究会での連係、実習の受け入れ、ヤングアメリカンにおける交流活動、教員研修を通して、IPU こども発達学科との連携を強化する。

### 【その他の設置校】

#### 4. 環太平洋大学短期大学部附属幼稚園

ヨコミネ式教育法を基盤に「心の力」「学ぶ力」「体の力」を育てるとともに、満3歳児の入園数を増やすために、2歳児親子を対象にした子育て支援事業を充実させ、本園の教育内容を広く周知する企画（母親教室、園庭開放等）を実施する。また、平成31年度から新制度（施設型給付）へ移行するための準備期間として、保護者への対応や申請書類の準備を行う。

#### 5. クラーク記念国際高等学校

インターナショナルコース及び国際コースの体制を強化し、海外大学進学を目指した進路指導の導入及び新コース・専攻の設置等により国際教育を推進する。また、多様な自己表現及び思考力・判断力・表現力を育成するため表現教育にも力を入れる。加えて、タブレットを活用した授業やプログラミング教育、ロボット教育の開発及び新コースの設置により ICT 教育を実施する。

## 6. 専修学校 クラーク高等学院天王寺校

教育活動の充実、進路指導の強化、生徒指導の強化を教育活動の柱として、進路先で活躍する力を養成するために、生徒の学習意欲を高め、目標進路決定に役立つ知識・資格を修得させる。また、電子図書及び ICT 教育の導入とともに、進路別選択授業により、きめ細かな進路指導を実施する。

## 7. 専修学校 クラーク高等学院大阪梅田校

H31 年度よりアプリ・ゲーム開発、WEB コンテンツ・ロボット制作等について学ぶプログラミングコースを開設するための準備及び広報活動を行うとともに、習熟度別コース授業実施による TOEIC スコアアップ、及び外部模試活用による偏差値ランクのアップを目指し、大学進学率の向上につなげる。

## 8. 専修学校 クラーク高等学院名古屋校

社会へと繋がる力の育成、大学進学率と質の向上、他校との差別化を叶える教育成果を上げるためにインターナショナルコースを含めたコース授業の改革を行う。特に、ネイティブ教員のチューター制度を導入し、個々の学習支援を強化するとともに、大学進学・商業専攻クラスの専攻授業の強化、特進クラス授業の土曜日実施等を実施する。

## 9. 創志学園高等学校

生活習慣の自律と学習習慣の自立を図るとともに、全科において生徒一人ひとりの夢実現に向け、教育活動の充実を目指すことを教育方針として、引き続き創学ゼミとの連携強化による学習システムの導入及び映像による個別指導強化等により岡山大学を含めた国公立大学及び関関同立以上の私立大学への合格実績数を伸ばす（目標 20 名）。また、海外での短期留学を推進し、生徒に生きた英語力とグローバルな感覚を身につけさせる。

## 10. 専門学校 東京国際ビジネスカレッジ

20 か国出身の学生がともに学ぶ国際色豊かな環境を活かし、異文化理解を深め、協調性等を身につけ、語学力（英語・日本語）を向上させ、世界の市場で即戦力となる人材の育成に努める。そのために、入学時から就職内定を視野に入れ、日商簿記 2・3 級、TOEIC、MOS、ホテルビジネス実務検定等、専門性の高い資格取得を 1 年次に合格できるように指導する。

## 11. 専門学校 東京国際ビジネスカレッジ 福岡校

専門課程においては、2 年間のカリキュラム、資格取得計画、希望進路別の進路指導内容の整備を三本柱とし、取組みと成果を確認しながら、PC や学生の自習教材の充実を図り学習環境を整備する。

高等課程においては、学力向上・進路決定・不登校復帰・資格取得といった教育活動の充実を図る。特に学力向上・進路決定の成果を向上させるため、英語教育の充実を図り、選択授業においては特に「聞く」「話す」技能の向上を目指した授業を取り入れる。H31 年度に国際総合コースを設置するために、英語教育の充実を図る。また、情報・キャリア教育の一環として 1 年生からタブレットを導入する。

## 12. 日本健康医療専門学校

「卒業後に責任を持つ教育の実践」を教育目標として掲げ、鍼灸・柔道整復学科は留年者・退学者・休学者を減らすための初年次教育の充実を図り、計画的な習熟度別補講及び実践施術のゼミ授業の実施により国家試験の合格率 100%を目指す。

また、ライフケア学科は卒業生や企業人を招き、在校生の就職に対する意識を高めるとともに、ビジネスマナー指導を徹底する。

さらに、ライフデザイン学科は難関大学合格を目指し、学内模試及び実力試験の月 1 回実施及び習熟度別クラスによる競争環境の仕組みづくりとともに、日々の補講体制（少人数制/TA による個別弱点強化）を行う。

以上